

## 結合組織移植による審美改善とインプラント補綴を行った1症例

所属 和歯科医院（鹿行支部）

安藤 和成

歯科治療に対する患者の要望は、発音、咀嚼などの口腔機能の回復から、より自然な修復物、さらには歯周組織との調和による審美的な治療へとステップアップしている。一方、歯肉退縮による根面露出は知覚過敏、根面カリエス、ブラッシングトラウマなどを誘発し、プラークコントロールを困難にして相互的に様々な問題を引き起こす。辺縁歯肉の連続性の回復と角化歯肉の獲得は審美的問題だけでなく、知覚過敏の抑制、根面カリエスの防止、プラークコントロール、自浄作用の優位性など健康な歯と歯周組織を維持するための重要な条件である。

露出根面に対する治療法として Grupe & Warren 1956 によって紹介された “lateral sliding flap” に始まる歯周外科処置は、後に歯周形成外科として Langer & Langer 1985 の上皮下結合組織移植に発展し適用範囲と予知性が拡大した。現在この術式は、様々な改良が加えられ、より予知性の高い歯周形成外科法として認知される。また、近年においては非外科的なサポータティブ・ペリオドンタル・セラピーの有効性も報告されている (Ando et.al 1999, Aimetti et.al 2005)

今回報告した症例は、根面露出に対する処置法として上皮下結合組織移植、遊離歯肉移植などの歯周形成外科法および非外科的処置法としてサポータティブ・ペリオドンタル・セラピー（SPT）が有効であることを支持する結果であった。

### 参考文献

1. Grupe HE, Warren RF Jr. Repair of gingival defects by a sliding flap operation. J Periodontol 1956; 27: 290-295.
2. Langer B, Langer L. Subepithelial connective tissue graft technique for root coverage. J Periodontol 1985; 56: 715-720.
3. Ando K, Ito K, Murai S. Improvement of multiple facial gingival recession by non-surgical and supportive periodontal therapy: A case report. J Periodontol 1999;70:909-913.
4. Mario Aimetti, Federica Romano Daniela C. Peccolo and Cesare Debernardi. Non-Surgical Periodontal Therapy of Shallow Gingival Recession Defects: Evaluation of the Restorative Capacity of Marginal Gingiva After 12 Months. J Periodontol 2005;76:256-261.